

早稲田大学 文学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	大問5題は昨年と同じ。設問スタイル、設問数も昨年度と変わらず、全体で見ればレベルも変化なしと言える。Ⅰの単語補充問題は、単語・熟語、文法、前後の対応関係などいろいろな知識、分析力を駆使して正答を選ぶ力が求められているが、昨年度から内容から判断させるものが多くなっている。昨今の大学入試における、すばやい内容把握を求める流れがここにも現れているようだ。文化構想学部の問題の選択肢は難単語が結構あるのだが、文学部はそこまで難しい単語はないため、一般的な語彙学習で十分に対応可能である。Ⅱは内容一致問題。例年通りの難易度で、ここは満点狙いが定石である。Ⅲの脱文挿入問題は差がつく大問。数年前までと比べるとやさしくなったとはいえ、結構迷ってしまう部分も多い。空所が7つで選択肢が8つなので、1箇所間違えば他の箇所も間違える可能性が大いにあるので慎重にいきたい。とは言え、迷い始めると際限なく時間がかかってしまうので要注意だ。Ⅳの会話文を用いた語句挿入問題は、選択肢が13個と多いものの、空所に入れるべき語(句)の品詞や語形を特定すれば、空所ごとの選択肢は実質的に2～4個程度となる。この問題は昨年度より易化している。Ⅴの要約問題は変更されてから同じ設問形式で、出だしが書かれていて、そのあとを4～10語で書き加えさせるもの。Ⅰ～Ⅳまでは、時間をかけるべきところとすばやく処理するところのメリハリをつけよう。Ⅴの要約は、焦った状態では内容が頭に入っていないので、過去問を解いて、落ち着いてⅤに取り組める最適な時間を見つけ、本番でもその時間を確保することが重要だ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	単語補充問題	分量・レベルは昨年並み。選択肢の語に関して、正解・不正解含め昨年度まで散見されていたレベルの難単語はほとんど見られない。文章の内容把握ができていれば、消去法を駆使せずともストレートに正答が選べるだろう。(A)の文章は全体的に婉曲表現・比喩表現が多用されているので、行間まで読み取る理解力が欲しい。(3)は空所直後の landless 「土地を持たない」、 disconnected 「つながりのない」から sailor 「船乗り」という比喩を選択する。(B)の文章では、サンスクリットに関する発見をコペルニクスの地動説の発見になぞらえている流れを掴み、(14)で telescope 「望遠鏡」を選択する。	標準
II	内容一致問題	分量、レベルとも昨年並み。英文の難易度はそれほど高くなく、設問もそれほど紛らわしいものはなかった。本文を読む前にリード文にさっと目を通し、何が問われているのかを把握したうえで読むようにしよう。正解率も重要だが、ここはいかに速く読み、短い時間で高得点を稼ぐかがポイントとなりそうだ。(A)は「マルチリンガリズム(多言語主義)」に関する文章。馴染みのあるテーマで読み易い。(B)は「歴史家トーマス・カーライル」に関する文章。17の(c)では、「(病気)を診断する」の意味の diagnose が「(問題の原因)を究明する」の意味で用いられているのがポイント。(C)の文章は「学習と直観の関連性」がテーマ。しっかりと該当箇所を特定できれば悩む選択肢はない。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	脱文挿入問題	「異種間結婚への道を切り開いたラビング夫妻」に関する文章からの出題。全体の分量・レベルは昨年並みだが、選択肢の英文の多くが、2～3行と非常に長いものになった。長い選択肢は読み切るのに苦労するが、その分、つながり・流れに関するヒントが文中にたくさん含まれていると言える。逆に短い(b)(c)(d)をすばやく確実に選択できるかがポイントになったかもしれない。内容だけでなく、指示語、代名詞、前後のディスコースマーカーにも着目して効率よく処理していこう。	標準
Ⅳ	会話文問題	13個の選択肢から語(句)・文を選択する問題。昨年度からは易化している。文の構造から、空所に入る語(句)の品詞や語形を特定するのが先決。そうすれば選択肢は2～4個に絞られる。(34)は文が入ることが一目瞭然なので2択である。今年度はⅣが最も時間を節約すべき問題だった。もちろん、すばやく終わらせるだけでなく全問正解が望まれる。	易
V	要約問題	200語程度の英文を1文の英語で要約させる問題。文化構想学部同様、英文の出だしがすでに書かれていて、そのあとに続けて4～10語の英語を書かせる形式。書くべき内容はかなり限定されそう。抽象度の高い内容の文章が出題されることが多いので、とにかく落ち着いて読むことが大事。本年度は「精神分析の創始者フロイト」に関する長文だった。繰り返し述べられている“given”と“taken”の意味を理解し、キーワードである reality を中心に簡潔にまとめる。主語が The unresolved issue「未解決の問題は…」なので、be 動詞に whether 節「...かどうか」をつなげると書きやすいだろう。短い英作文なので文法・語法・スペルの誤りは厳禁。過度に難しい表現は避けた方がいいだろう。	やや難